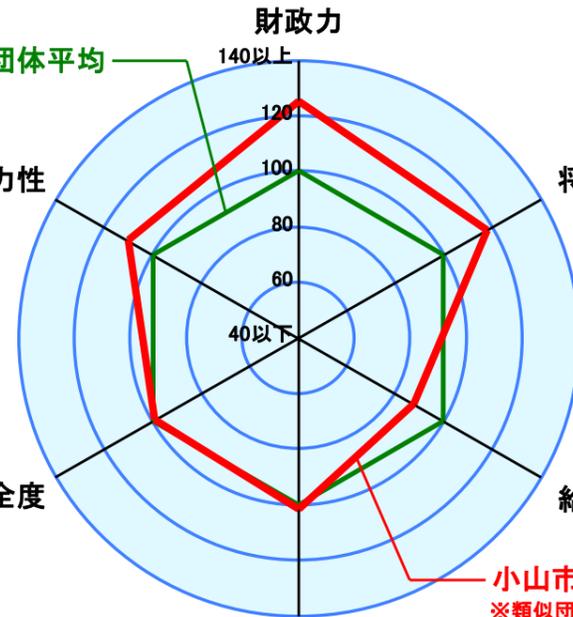


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

栃木県 小山市

人口	155,429 人(H17.3.31現在)
面積	171.61 km ²
歳入総額	50,537,649 千円
歳出総額	49,120,718 千円
実質収支	1,275,315 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【財政力指数】 工業団地を造成し、企業誘致に努めた結果等により、類似団体平均を上回る税収があり、0.97となっている。今後も産業・都市・教育基盤の整備による人と企業を呼び込む施策を重点的に取り組む。

【経常収支比率】 職員数を適正化計画により削減して人件費を抑制しており、経常収支比率は類似団体の中で最も低い比率を保持しているものの、高度成長期に小山市の人口が急増した時期に採用した団塊の世代の構成比が多いなどから依然として人件費比率が高いため、給与の適正化等により、引き続き人件費の抑制に努める。公債費は、縁故債20年債の導入などにより平準化を図っており経常経費の削減に努めている。

【起債制限比率】 類似団体平均をやや上回っているが、近年は臨時財政対策債を除く通常債の発行額を元金償還額を下回るよう、起債抑制に努めている。また、縁故債を20年債とするなど、公債費の平準化に引き続き努める。

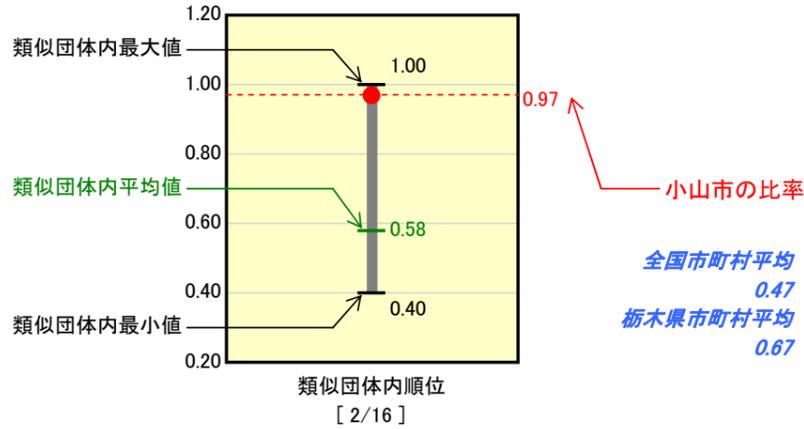
【人口1人当り地方債現在高】 地方債現在高は増加傾向にあるものの、新規地方債の発行を最小限に抑制しており、県内市町村及び類似団体平均を下回っている。今後も後世への住民負担を増大させないよう、計画的に活用し財政の健全化に努める。

【ラスパイレス指数】 現在は給与制度が年功的な要素の強い運用となっており、類似団体で最も高い、101.1となっている。このため、初任給の引下げ、昇任昇格基準の見直し等を行っている。今後は、職務職責に応じた給与体系にすることなどによりラスパイレス指数の低下に努める。

【人口1000人当り職員数】 定員適正化計画による退職者不補充や民間委託の推進等により、平成12年度～16年度において職員を177人、9.6%(全会計合計)削減したことから、類似団体平均は下回っているものの、県内市町村平均より高い水準にある。さらに、平成17年度以降5年間の計画において平成22年4月1日までに110人、6.6%の削減を目標とし、より適正な定員管理に努める。

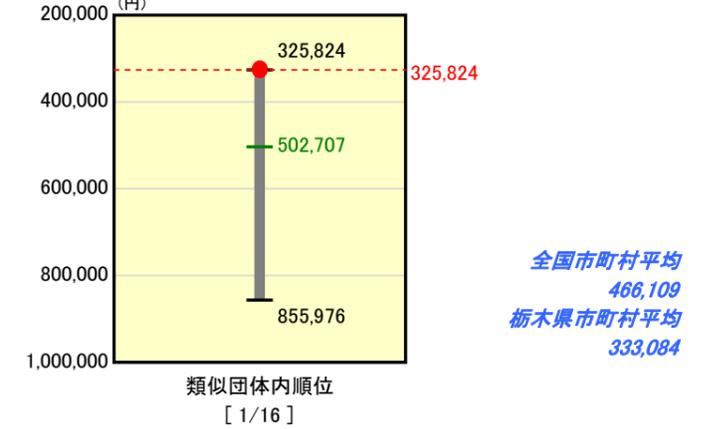
財政力

財政力指数 **[0.97]**



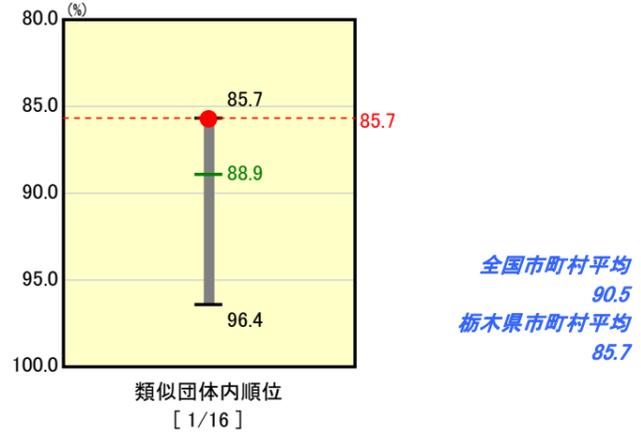
将来負担の健全度

人口1人当り地方債現在高 **[325,824円]**



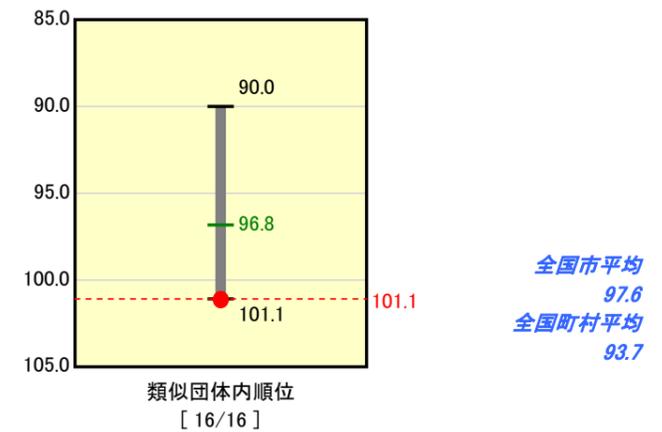
財政構造の弾力性

経常収支比率 **[85.7%]**



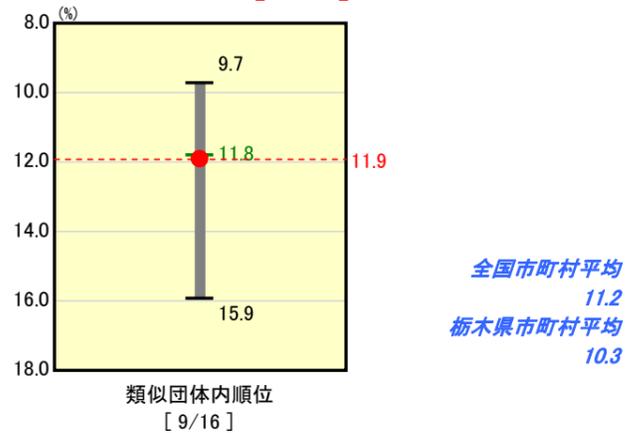
給与水準の適正度(国との比較)

ラスパイレス指数 **[101.1]**



公債費負担の健全度

起債制限比率 **[11.9%]**



定員管理の適正度

人口1,000人当り職員数 **[7.93人]**

